

90 キリ胴枯れ性病害の総合的防除技術の確立

福島県林業研究センター森林環境部・平成8～12年度林業試験場報告

- 1 部門名 林業－特用林産－防除方法 分類コード 18－15－29000000
- 2 担当者 五十嵐文明・青野茂・古川成治
- 3 要旨

会津地方では、重要な短期収入作物として、古くからキリの栽培が行われてきたが、近年、腐らん病またはオカメなどと呼ばれる胴枯れ性病害が多発し栽培上大きな障害となっている。

このキリ胴枯れ性病害は、バルサ菌とフォモプシス菌と言う二種類の病原菌により引き起こされるが、会津桐は、分根法などによる人為的な育種が進み、遺伝的多様性、すなわち、変異の幅が小さくなっているため、抵抗性育種の手法で、キリ胴枯れ性病害に対する抵抗性系統を選抜するのは困難で、キリの苗木に菌を接種する系統別接種試験においても、若干菌糸伸長量の少ない系統はあったが、明らかな抵抗性の系統は、見出せなかった。

薬剤散布試験においては、一定の予防的効果が認められ、また、食葉性害虫の食害と胴枯れ性病害の関係を検討した切葉試験の結果からは、樹勢に影響するような食害は、抵抗性にも関係することが明らかとなった。

現段階での対策として、健全で優良な会津桐を養成していくためには、適切な保育管理と病害虫の防除により、発育旺盛な樹勢のあるキリを育成し、胴枯れ性病害菌の感染自体を防ぐとともに、適期の薬剤散布により、予防的防除の徹底を図っていくことが重要である。

さらに、今後、新たな視点、遺伝子レベルから、キリ胴枯れ性病害についての対策を検討していくことも必要である。

4 主な参考文献・資料

- (1)福島県林業試験場研究報告第29号